

第 57 回佐賀県高齢者保健福祉推進委員会（会議概要）

【日時】 令和 8 年（2026 年）3 月 23 日（月） 18：00～19：00

【場所】 佐賀県庁新館 11 階 大会議室

【出席者】

<委員>

織田委員、倉田委員、中島（洋）委員、宮崎委員、田中委員、高津委員、小佐々委員、山元委員、高塚委員、鈴木委員、原委員、山津委員、久野委員、本田委員（オンライン）、山本委員、片淵委員、小松委員、今田委員、中島（美）委員、福地委員、小林委員、小池委員、石本委員、大石委員（計 24 名）

<事務局>種村健康福祉部長 他 13 名

1. 開会

2. 挨拶（健康福祉部 種村部長）

3. 議事

・高齢者保健福祉推進委員会会長、副会長の選出

織田委員を会長に選出、倉田委員を副会長に選出

・第 10 期さがゴールドプラン 21 の策定に向けたスケジュール等について

計画の趣旨及びスケジュール等を説明（資料 1）

第 9 期計画の概要について説明（参考資料 2）

4. その他

第 10 期計画に係る国の基本指針の状況等について（資料 2）

5. 議事に関する質問・意見の概要

質問・意見	事務局から
・重点施策となっている「医療・介護人材の確保・育成」について、本委員会では時間の制約があり、深い議論ができないので、重点施策に関する分科会のようなものが設置できないか。	・要望を踏まえ、今後、検討したい。
・若年層の介護人材の確保が重要と考えているので、次期計画の検討に当たり、介護人材養成高校へのヒアリング等を検討していただきたい。	・今後、まずは学校と意見交換させていただく。
・県全体で介護・医療・福祉の人材が少なくなっており、給料が安いことが大きな要因。	・介護人材の給与を上げることや地域格差をなくすことなどを国に政策提案している。
・国への要請は、行政だけでなく、現場の声も集めて行っていくべき。	・国への要望に当たっては現場の声を重視しており、今後も現場の声を反映していく。

<ul style="list-style-type: none">・人材確保については、介護職だけでなくケアマネジャーなども含め幅広く考える必要がある。	(意見のみ)
<ul style="list-style-type: none">・人材は、確保だけでなく、定着させることが重要で、そのためには、外国人も含め働きやすい環境を整備していくことが必要。	(意見のみ)
<ul style="list-style-type: none">・取組が上手くいっている施設の好事例をオープンにし、各施設の自主的な改善を促す流れも作った方がよい。	(意見のみ)
<ul style="list-style-type: none">・外国人材については、短大等でも育成を担っているので、短大等の意見を聞くのもよいのではないか。	(意見のみ)